

「目標が達成されたか」ではなく、「手立てを講じているか」で評価する。「自分が」ではなく、「学校が」という視点で評価する。

・4→十分達成、3→ほぼ達成、2→やや不十分、1→不十分で評価する。1、2を選択した場合は、必ず具体的な改善策を記入する。

重点目標	◆評価項目	評価のための指標	数値	各部署からの提案
個別最適な学びと協働的な学びを充実させるために、	1	児童が落ち着いた安心して過ごせる生活環境を作る ・児童に自分よきや他者の良きわかるような活動や準備の工夫 ・学期内、又は学年をまたいで文庫読書や合同読書を積極的に行う。(みんなうちの子) ・整理整頓を心がける。清掃の徹底。机並の整備。床に物が落ちてない。 ・けがやトラブルがあったときには、児童が帰宅する前に保護者に連絡 ・学期に1度以上、ミニミニ園遊会を実施し、児童と担任が対1で話ができる機会を設ける。	3.2	・主体的に学び合える環境づくりをそれぞれ意識していきましょう。(学力向上) ・特活部と連携して、より児童発信型の挨拶運動に移行していく。3学期は1年生があいさつ運動を行う。
	2	主体的に学ぶ(活動する)児童を目指す ・キャリア教育の推進(なりたい自分になる) ・ICTの積極的な活用。 ・ゲストティーチャーを招き、専門性を生かした授業作りを行う。(本物に触れさせる) ・学校図書館の活用	3.3	・以下の通り、実施している。来年度も同様に行う予定。(学力向上) 3年:「お祭りに入りの場面を見つけよう」(地域) 4年:「個人差プログラムを考案しよう」(キャリア) 5年:「川場移動教室に向けて」(地域) 6年:「日光の地域の特色を調べよう」(地域) 「未来への航海」(キャリア) EzCastの不具合については専業主さんと検証解消の方法を検討します。しかし原因不明のため手順が示せません。改善策の一つとしてアナログ接続ができるように来年度ケーブルの予算を申請します。またiPadとの相性を考えてappleTVの購入も検討中。
	3	共生社会の実現に向けた活動の推進及び、多様な学び、多様なものの見方を醸成する ・教員自ら人権感覚を養く(得意な言語に気を付ける) ・ユニバーサルデザインを常に意識する(視覚に訴える教材の工夫、板書の工夫など) ・オンライン教育の推進 ・様々な事情を抱えた児童を取り残さずことなく工夫を凝らす。(感覚過敏 登録しふり等)	3.3	
	4	安全・安心な学校を目指す ・初期対応を丁寧に(後)こなるほど大きなエネルギーが必要) ・安全点検、安全指導の徹底。命の大切さ。(避難訓練は100点でなければならない！) ・安全第1 学校事故防止(複数目で確認 ダブルチェック) ・対応の原則(迅速、徹底、スピード) ・0-11テストの活用 ・学級での居心地を高めるための方策 要支援群の児童への対応	3.3	来年度、若手研などで実施するとよい。00の扱いに不慣れな方も参加できるようにする。
教職員の働きがいを高め、	1	常に組織を意図して教育活動を行う ・学年、チームでの対応(一人に対応しない科の関係をうまく使う) 学年主任同士の連携 ・生活指導主任やらの活用 必要な情報を必要なが保有する 空き時間を活用 ・管理職への報告・連絡・相談、確認の徹底(学校の信頼に大きく影響します)	3.4	
	2	開かれた学校づくりを推進する ・学校の充実。積極的な受入(一人一人が学校の広告塔の自覚) ・学校便り、学活便りの充実。お知らせだけでなく、考えや具体的な子どもたちの発信 ・保護者・地域を巻き込んだ教育活動	3.3	・学年だよりを学校だよりにて一体化させる。くすのき、きはだのお便りはすぐ一配に作る。(教務) 学年だよりを廃止し、学校だよりに統一します。(ICT)
	3	教職員の物理的・精神的負担の軽減 ・作成した資料や教材の共有 ・交換授業や合同授業の推進(教材準備時間の効率化) ・会議の精選 教材研究のための時間の確保	3.3	
探究的な学びを効果的に活用するし、	1	◆ <u>ICT活用</u> の推進 ・タブレットの使用が目的ではなく、あくまでも手段として活用 ・ネットリテラシーについても指導する ・保護者の理解、協力を仰ぐための努力 ・タブレット活用への心づけ	3.2	・01研修として、各学期はじめに設定する。(教務) ICT部を中心に30分程度のICT活用研修を学期に1度入れる。(ICT部) 1学期初め…ICT主任によるタブレット活用研修 2、3学期初め…各学年からICTを活用した学習の紹介
	2	◆ <u>教材や探究的学習の活用</u> ・学年や専科との連携を密に。情報の共有 ・専門性を高めるための努力、研修 ・校内での積極的、自主的な教員研修	3.3	
子どもに努める、学校力向上	1	健康・体力に関心をもちさせる教育を行う ・体育授業の充実(校内研究 系統性 基礎・基本 積み重ねの重要性) ・外遊びの奨励	3.3	・運動委員会でもよくお願いします。(特活部) ・運動委員会主催の遊びの企画は、来年度も継続していきたい。(体力向上部)
地域と連携して	1	・商店街の中にある立地や、歴史ある本校の背景を、効果的に活用 ・地域人材の活用 ・外部機関との連携 ・豊かな体験活動	3.5	

	学校運営の課題と考えられる点	各部会からの提案
自由 記 述	学校関係以外の配付物が多いと感じる。	現状最低限の配布にしている。区、都以外のお知らせは配布しない。
	学校便りのうち、時間割（何時開校）だけでも、すぐ一冊などで先行配信できないものか。行事が2か月続くのは大変。	毎月1.5か月分の日程を学校だけで伝える。例：4月+5月の2週間。こうすることで月初めの予定を事前に周知することができる。（教務部）
	クラス替えで配慮してくれるのであれば・・・と言ってくる保護者が数いた。（程度なこと）	お約束できないが考慮する旨を伝えるという返答でどうか。（教務）
	行事2つを同じ学期に行うことは控えてほしい。	第1音楽会7月運動会11月 第2音楽会9月 運動会11月 第3 音楽会12月 運動会10月
	運動会と音楽会の時期が近く、児童の負担が大きかった。	
	学校公開が多すぎて、教員の負担が大きい。	学校公開の日数は教育委員会から8～10日程度と定められていて、一応最低日数に設定しています。（教務部）
	体育倉庫が整理されていない。	・運動委員会でもよろしくお願ひします。（特活部） 運動委員会の児童と学期に何回か整理を行う。（体力向上部）
	勤務時間内終わる業務量では、到底ない。	余剰時間を減らし、会議を精選し、より良い働き方働き方を指す。
	補教担当が担任だと、朝学級に行かないといけないのに、なかなか行けず大変。	補教担当に専科を入れる。黒板記入を補教用紙を貼ることで代替する。（教務）
	世小研に間に合わない。（出張に行きたいのに、出られない。）	世小研の目的み特別時程にしてはどうか。（教務）
	成績処理の時間が設定されていない。	成績処理前に時数をカットしたい。しかし、個人面談で多くカットしてる部分もあり、多くとることはできない。（教務）
	休憩時間や、退勤時刻以降に度々会議などが食い込む。	基本的に各時後の会議は設定しないようにしています。 会議が休憩時間や勤務時間以外に入ってしまう場合は会議の司会、分掌の主任が途中で会議を止め、再設定の日程を教務と相談する。 ミーティングは水以外を認まないで、16:30-16:40を原則とする。 成績処理の時間は都民の日を授業日として、その分の時間を学期末から削ることで捻出したい。（教務部）
	職員室のどこに、どのような書類を管理しているのか、整理する必要がある。	教育計画の文庫に保管場所を記述する。（教務）
	世小研の授業がある際には、特別時程にできないか。授業開始までに間に合わないことがある。	
	避難訓練 「特別教室はなし」を無くしたい。	・今後は「小アリーナ」「算数少人数教室」なども含んだ、より平常の学習状況に近い環境での訓練を行うことができるよう計画していく。低学年の講師等は事前の打ち合わせを入念におこなっておく。（生活指導部）
	不審者対応訓練における各教員の役割が不明確。本日に不審者が侵入してきた際、放送で「お手すきの先生」といわれても、各学級担任は児童管理のために、きっとその場は離れないと考えられる。	・実際には臨機応変な対応が必要。だが、年度初めに学年で不審者対応担当を決めておく。そして有事の場合の動きを確認しておく。
	避難訓練2次避難	・二次避難場所の第2校庭は出入り口が少ないことや、火災の場合に近ずることから、煙が心配。近隣の学校や公園を避難場所とすることも視野に入れ、計画をたてる。
	家の生活習慣ができていない児童に、タブレットを充電して持ってくるということが難しい。	ICT部で予算申請を行い、各学級に2つ程度充電器を配備できるようにする。（ICT部）
	保護者会	9月の保護者会をなしにしてはどうか。（教務）
	看護当番で正門や西門の担当に当たると、8：25過ぎまで立たないといけなく、8：26から始まる朝の会に合わない。間に合わないという誰が選別なのか、誰がいないのかを把握できない。	・正門、西門担当は8時22分まで立ち当番を行い、教室に戻ることをする。門の閉鎖は主事が担当する、門を閉めるまでの数分間は、担任をもたない教職員で昇降口等の様子に気を配っていただくようにする。（生活指導部）